

EU Indicators

欧州経済指標コメント：12月ドイツ I f o 企業景況感

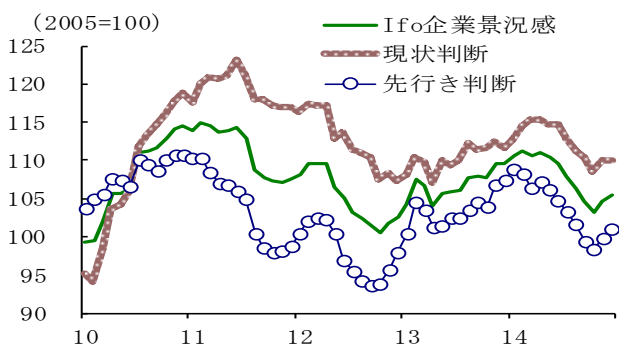
発表日：2014年12月19日(金)

～これで安心して年を越せる？～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

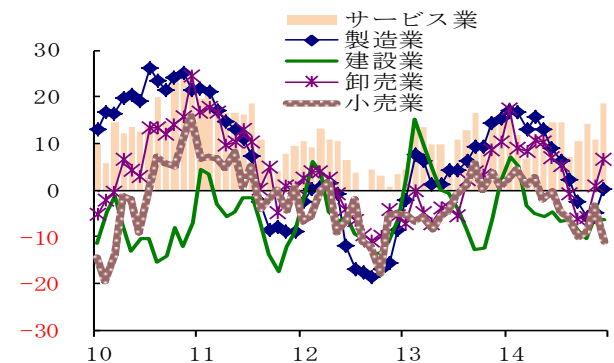
- 18日に発表された12月のドイツの I f o 企業景況感（2005年=100の指数）は前月差+0.8ポイントと2ヶ月連続で改善した。内訳は、現状判断が前月から不変の一方、先行き判断が2ヶ月連続で改善。業種別の先行き判断（ゼロが業況判断の分岐点）は、製造業（前月：▲4.8→今月：+0.3）が4ヶ月振りにプラス圏へ復帰、卸売業（+0.8→+6.5）の改善モメンタムが加速した一方、建設業（▲6.2→▲6.1）が低迷、小売業（▲3.3→▲11.2）の悪化幅が拡大した。別途発表されたサービス業の業況判断は、現状判断（+28.4→+32.8）、先行き判断（+10.7→+18.6）が揃って改善。前月に改善モメンタムが鈍化し、サービス業の支えに驕りも出ていたが、そうした懸念はひとまず後退。
- 製造業の改善加速とサービス業の減速懸念後退は、ドイツ景気が来年に向けて回復の足取りを固めることを期待させる。ハードデータが揃って反発し、夏場の減速が一過性のものであったことを確認。原油安も企業のコスト負担軽減や家計の実質購買力上昇のプラス側面と捉えられている模様。
- 懸念材料は2つ。1つは小売業の業況悪化が続いていること。来年からの最低賃金引き上げが、家計所得の底上げよりも、小売業者の件数費上昇につながると懸念されている可能性がある。もう1つは、ロシア経済の疲弊。ドイツはロシアにとって中国に次ぐ2番目の輸入国。ドイツのロシア向け輸出シェアは3%強にとどまるが、中東欧諸国からの迂回輸出を含めれば影響は無視できない。

■ ドイツ：I f o 企業景況感



出所：Ifo

■ ドイツ：業種別の先行きの業況判断



出所：Ifo

■ ドイツ I f o 企業景況感

	2014				2014											
	1Q	2Q	3Q	4Q	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
企業景況感(総合)	110.8	110.3	106.3	104.5	111.1	110.3	109.6	107.9	106.3	104.7	103.2	104.7	105.5			
現状指数	114.0	114.9	111.4	109.5	115.2	114.7	114.7	112.8	111.1	110.4	108.4	110.0	110.0			
先行き指数	107.8	106.0	101.4	99.7	107.2	106.1	104.7	103.3	101.6	99.3	98.3	99.8	101.1			
業況判断	14.1	13.1	5.3	1.8	14.7	13.0	11.7	8.5	5.2	2.2	-0.6	2.3	3.7			
製造業	18.8	18.1	9.2	3.9	20.1	18.8	15.4	12.2	9.3	6.2	1.5	3.9	6.4			
建設業	-0.2	-3.7	-5.9	-6.4	-3.4	-4.0	-3.7	-5.5	-5.3	-7.0	-7.2	-5.9	-6.2			
卸売業	12.9	12.6	3.1	4.4	14.2	11.2	12.3	9.1	2.6	-2.5	-0.1	6.1	7.2			
小売業	7.0	6.7	0.2	-3.2	7.6	4.7	7.9	3.6	-0.8	-2.1	-4.6	-1.7	-3.3			

出所：Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。